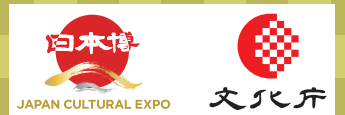


東京国立博物館から
8点里帰り！



令和2年度地域ゆかりの文化資
産を活用した展覧会支援事業

群馬県立歴史博物館 春の特別展示

新・すばらしき 群馬のはにわ

序 群馬のはにわのすばらしさの背景

一昨年夏、当博物館では、「集まれ！ぐんまのはにわたち」と題する第99回企画展を実施し、大変好評を博しました。この企画展は、県内市町教育委員会、県埋蔵文化財調査事業団、県教育委員会との連携事業として実施し、最近の調査で発見され、話題となった埴輪が勢揃いしました。その際、来館者の方々から、「県立歴史博物館には、太田市塚廻り古墳群や前橋市舞台1号墳を始めとし、国重要文化財に指定されているたくさんのすばらしい埴輪があるのだから、今回は、それらの全貌を見学できる機会を是非設けてほしい」という要望が多く寄せられました。

その要望に応じて昨年4月に開催を計画したのが特別展示「すばらしき群馬のはにわ」で、塚廻り古墳群の見事な出来映えの埴輪群や舞台1号墳の味わい深い埴輪群、あるいは、美少年の風貌の榛東村高塚古墳の挂甲武人埴輪等々、数多くの埴輪を楽しんでもらおうと展示作業を完了し、後は皆さんにお越しいただくだけの運びとなりました。

ところが、その年の1月に浮上した新型コロナウイルス感染が大きく問題化したため、特別展示の期間は臨時休館とせざるを得なくなり、残念ながら展示を見てもらう機会を失ってしまいました。

今回の特別展示は、基本的には開催を断念した昨年の内容を踏襲するものとなりました。さらに、今回は東京国立博物館の御協力を得て、同館が所蔵する群馬県の藤岡市白石稲荷山古墳、高崎市箕郷町上芝古墳出土の埴輪群等を借用し、展示できる運びとなりました。これらは待望の群馬への里帰り展示であり、群馬の埴輪のすばらしさをさらに実感してもらえる絶好の機会となることでしょう。

なお、昨年9月30日、綿貫観音山古墳の埴輪群は、石室内出土の副葬品群と併せて国宝に指定されました。展示室は異なりますが、これら国宝埴輪群も併せて楽しんでいただけたらと思います。

(特別館長 右島和夫)

※3月19日までは改修工事による休室のため、国宝の埴輪の観覧はできません。



挂甲武人 高崎村上芝古墳
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives



1. 古墳時代と埴輪

◆古墳の造られた時代

古墳とは、「土を盛った古い時代の墓」という意味ですが、正確には、奈良県箸墓古墳のように巨大な前方後円墳が登場する3世紀後半から、8世紀初頭までに営まれた墳墓になります。東北北部・北海道の末期古墳も加えれば、沖縄県を除く46の都道府県で確認されています。

墳丘長500mを超える国内最大の大阪府大仙古墳から、直径が10m未満の小さな円墳まで、大小様々の古墳が造られています。約400年の間に、15万基以上（全国のコンビニの数の3倍より多い！）が築かれました。

大型の古墳を築くには、強力なリーダーシップと莫大な労働力が必要です。この時代を通して最大の前方後円墳を築いた、近畿中央の倭王を頂点に、各地の有力豪族が同じ形の前方後円墳を築いていたことから、古墳の規模・形に、葬られた人物の身分や勢力が表れていると考えられます。古墳を調査・研究することで、当時の政治や社会の仕組み、地域間交流の様相が解明できるのです。



高崎市綿貫観音山古墳（墳丘長97m）

◆埴輪（はにわ）とは？

「埴」とは粘土のことで、古墳の上や周りに立てられた粘土の焼きものが「埴輪」です。3世紀後半から6世紀末まで作られ、前方後円墳が築造されなくなる7世紀には、姿を消します。

埴輪の中で最も古くからあるのが、円筒埴輪です。弥生時代の終わり頃に墓に供えられた壺をのせる台（器台）が、やがて変化して円筒埴輪となり、古墳が聖なる場所であることを示すために立てられました。一方、家形埴輪、人物埴輪、動物埴輪、武器・武具など表した器財埴輪などを、まとめて形象埴輪といいます。人物・動物埴輪はほかの種類にやや遅れて、5世紀に入り登場します。

これら様々な種類の埴輪を組み合わせるにより、古墳に埋葬された人の生前の様子や、神まつりのような重要な儀式などを表現していたと考えられます。

埴輪を調べるにより、当時の人々の髪形や服装をはじめ、現在は失われている様々なものや生活様式を解明することが可能です。



2. 塚廻り古墳群のはにわたち

埴輪王国ともよばれ、埴輪出土古墳が多い群馬県ですが、特に後期（6世紀）に埴輪を樹立する古墳が多く、大きな前方後円墳はもとより、直径10m前後の小さな円墳でも埴輪が確認できます。その群馬県で最も美しいとされる埴輪が、この「塚廻り古墳群のはにわたち」です。

塚廻り古墳群は太田市 龍舞町^{りゅうまいちょう}にあり、墳丘長30m未満^{ほたてがいしき}の帆立貝式古墳や円墳など小規模の12基の古墳が、6世紀前半を中心に築かれています。



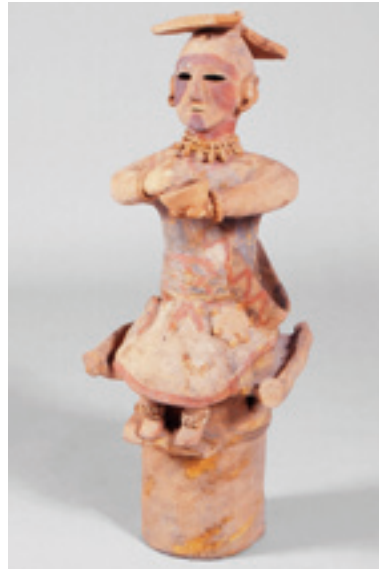
太田市塚廻り4号古墳（墳丘長22.5m、手前）と、3号古墳の一部（奥側）



跪座の男子 高さ49.4cm
太田市塚廻り4号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）

《跪座の男子》

重要な儀式において、中心人物に対しひざまづく従者の埴輪です。振り分け髪と下げ美豆良^{みづら}は、儀式における厳粛なヘアスタイルです。鈴付の腕輪や右腰の刀子^{とうす}の丁寧な表現には目を見張るものがあります。



倚座の巫女 高さ68.9cm
太田市塚廻り3号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）

《倚座の巫女》

魔除けの鋸齒文^{きょしもん}をあしらった大帯や襷^{たすき}（意須比^{おすい}）をまとい、腰に呪具の鈴鏡^{れいきよう}をつけた巫女です。勾玉を含む二重の首飾りや手玉、足玉など、入念なアクセサリもふくめて、特別な身分の巫女と考えられます。



大刀を持つ女子 高さ78.7cm
太田市塚廻り4号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）

《大刀を持つ女子》

刀は通常男子の埴輪に表現されるため、大変珍しい巫女の埴輪といえます。儀式に臨み、中心人物に寄り添い、大刀を捧げもつ役割を担っているのでしょうか。



馬子と飾り馬 飾り馬の高さ85.6cm
太田市塚廻り4号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）

《馬子と飾り馬》

古墳時代に渡来人が海を越えて倭国^{わこく}へ連れてきた馬は、当時最速の乗り物であり、豪族たちは競って手に入れていました。

この馬形埴輪には最高級の馬具が、おそらく実物の詳細な観察をもとに、極めて丁寧に表現されています。

3. 東京国立博物館のはにわ

東京国立博物館には、群馬県出土の埴輪が、戦前にみつかったものを中心に多数所蔵されています。今回は、その中から選りすぐりの8点をご紹介します。

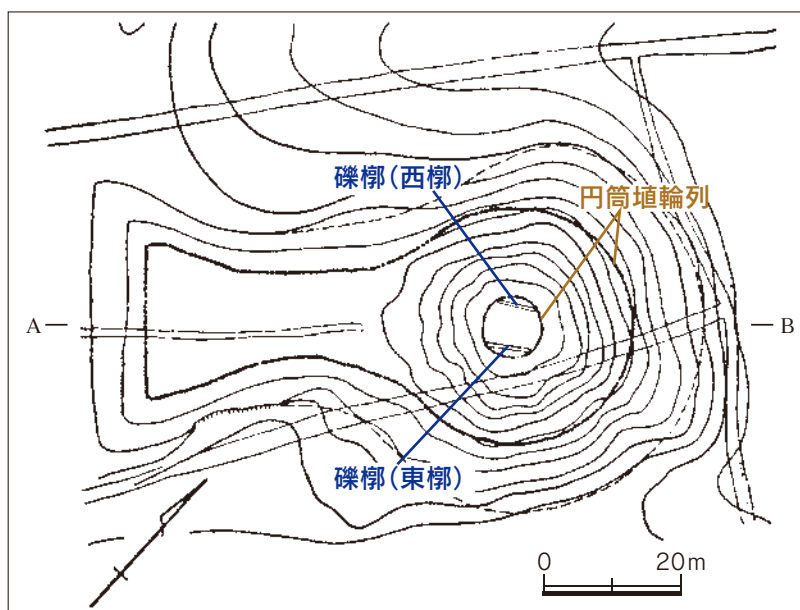
◆白石稲荷山古墳の埴輪



白石稲荷山古墳の墳丘（西から）

白石稲荷山古墳は、藤岡市^{しろいし}にある、墳丘長 155 m、三段に築成された大型の前方後円墳です。

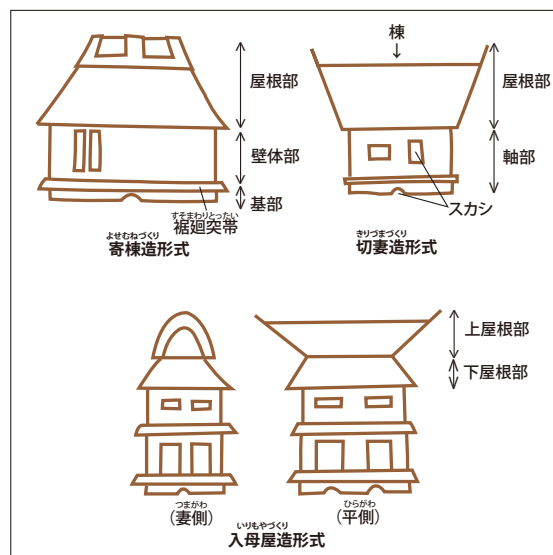
1933（昭和8）年に群馬県史蹟名勝天然記念物調査会の相川龍雄氏と東京帝室博物館（現・東京国立博物館）の後藤守一氏により発掘調査が行われ、後円部墳頂から埋葬施設の^{たてあなしきりか}竪穴式^{せきせい}礫^も礫^{ごうひん}が2基、東西に並んで確認され、内部から銅鏡、鉄製武器、石製模造品など多数の副葬品が見つっています。埋葬施設の上にあたる墳丘上から、多数の家形埴輪や、短甲形埴輪が出土しています。出土品の特徴から、5世紀の初めの築造と考えられます。



白石稲荷山古墳の墳丘と埋葬施設
（藤岡市史編さん委員会 1993 より、一部改変）

◆後円部墳頂で見つかった形象埴輪

西側の礫礫の上にあたる墳丘上で、家形埴輪 3 棟と短甲形埴輪 1 個が礫礫に沿い、直線に並んで見つっています。家形埴輪は入口のある正面を後円部の中央側に向け配置されていました。東側の礫礫上の墳丘上でも、5 棟の家形埴輪が見つっており、配置の詳細は不明ですが、西側礫礫上の埴輪と同じような直線的な配置であったと推測されています。



家形埴輪 屋根の形のタイプ
（青柳 1995 掲載図を基に作成）

きりづまづくり 《切妻造 家》

東側礫檣の上で見つかっています。屋根の形式は切妻造で、内部に床は作られていません。平側に入口と窓が各1箇所作られています。妻・平両側に粘土帯で柱、梁が表現されています。表面には赤色の塗彩が確認できます。



家形埴輪 切妻造家 高さ 64.2cm
藤岡市白石稲荷山古墳
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives



家形埴輪 切妻造家 高さ 54cm
藤岡市白石稲荷山古墳
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives

《切妻造 家》

西側礫檣の上に配置されていました。屋根の形式は切妻造です。平側に長方形の入口と窓が一つずつ表現されています。妻側のみに粘土帯で梁が表現されています。

また内部には床がありません。表面に赤色顔料が塗られています。

たんこうがた 《短甲形埴輪》

鉄製武具の一種の短甲（三角板革綴短甲）を表現した埴輪です。豪族の権威を示す「威信財」の甲を表現し、邪悪なものから護るために置かれたと考えられます。外面と背上部内面に赤色顔料の塗彩が認められます。



短甲形埴輪 高さ 69.7cm
藤岡市白石稲荷山古墳
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives



家形埴輪 寄棟造高床倉庫 高さ 52.7cm
藤岡市白石稲荷山古墳
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives

よせむねづくりたかゆか 《寄棟造 高床倉庫》

東側礫檣の上で見つかり、高床の建物を表現しています。屋根は寄棟造で、切妻造家と同じく内部に床を持たず、平側に一か所長方形の入口を有し、表面には赤色顔料が塗られています。近年では、倉庫ではなく被葬者の霊の依代となるような重要な建物を表したとする見解もあり、再び注目されています。

◆人物埴輪と器財埴輪



挂甲武人 高さ 120cm
高崎市上芝古墳
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives

《挂甲武人》

上芝古墳は、高崎市箕郷町にあった墳丘長 17m の帆立貝式古墳で、1929 (昭和 4) 年に地元の研究者の福島武雄氏により発掘調査されています。墳丘基壇テラス上で円筒埴輪、造り出しから人物埴輪 5 体以上、馬形埴輪 2 体などがみつかります。埴輪から 6 世紀前半の築造とみられます。

埴輪は武具の衝角付冑と挂甲 (小札甲) で身を固めた武人を表現しています。両手を大刀に添えた「抜刀のスタイル」は、より新しい時期の伝・太田市飯塚町出土の挂甲武人埴輪 (国宝) にも受け継がれており、挂甲武人埴輪の変遷を考える上で重要な例です。



武人頭部 高さ (残存部) 27.3cm
邑楽郡千代田町・大泉町 新福寺観音山古墳 (古海松塚 25 号墳)
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives

《武人頭部》

新福寺観音山古墳 (古海松塚 25 号墳) は、邑楽郡千代田町・大泉町にまたがって所在する墳丘長 65 m の前方後円墳で、6 世紀代の築造と考えられます。この埴輪は 1931 (昭和 6) 年に出土しています。

頭部には武具の鉾留 衝 角付冑、首には丸玉が表現され、目尻付近に赤色顔料の塗彩が認められます。



盛装男子 高さ 114cm
藤岡市白石
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives

《盛装男子》

1935 (昭和 10) 年に藤岡市白石字滝で出土した人物埴輪です。頭部には鈴形の飾りの付いた帽子と、羽根状の飾りのある大きめの美豆良の表現が認められます。腰には鋸歯文のある大帯、大刀、水玉文様をあしらった鞆が表され、脚部には鈴の付いた足結の表現を伴います。これらの特徴から、6 世紀後半ごろのものと推測されます。



靱形埴輪 高さ 92.8cm
伊勢崎市豊城町権現下
(東京国立博物館蔵)
Image : TNM Image Archives

《靱形埴輪》

1936 (昭和 11) 年に伊勢崎市豊城町で見つかった埴輪です。靱 (背中に背負うタイプの矢筒) を表現した器財埴輪で、上部には粘土紐で鍔が先端を上に向けて表現されています。正面中央にはリボン状の背負い紐が、粘土紐で表されています。

4. 不動山古墳の円筒埴輪

高崎市綿貫町にある不動山古墳は、墳丘長 94m の前方後円墳です。1962～64（昭和 37～39）年の発掘調査により、葺石を持つ二段築成の墳丘が確認され、また円筒埴輪の配列が明らかにされました。埴輪の特徴などから 5 世紀前半の築造が推定されています。

円筒埴輪は、朝顔形埴輪と普通円筒埴輪が 1：6 の割合で確認されています。朝顔形埴輪は高さ 90cm 前後で、突帯（タガ）を 4 条持ちます。普通円筒埴輪は高さ 60cm 前後で、突帯は 3 条です。外面調整にヨコハケが認められる円筒埴輪が多く確認できます。



朝顔形埴輪 高さ 90.4cm
高崎市不動山古墳（当館蔵）



普通円筒埴輪 高さ 61.8cm
高崎市不動山古墳（当館蔵）

5. 舞台 1 号古墳の世界

舞台 1 号古墳は前橋市荒子町にあった、墳丘長 42m の帆立貝式古墳です。墳丘上では円筒埴輪が、造り出し部で家形埴輪が 2 棟見つかっています。埴輪より 5 世紀後半の築造と考えられます。

また造り出し部では石製模造品と供物表現のある土師器が出土し、古墳を特徴づけています。

石製模造品は、長方形の遺物埋納施設に納められており、いずれも滑石製で、鏃 5 点、鎌 2 点、斧 9 点、刀子 67 点、勾玉 1 点、有孔円板 15 点、白玉 202 点、下駄 2 点からなります。

粘土による供物表現のある土師器は、赤色顔料が塗られ、遺物埋納施設より 1.5m の平坦部より出土しています。供物は、その形から小魚や団子、木の実などの食物の表現と考えられます。



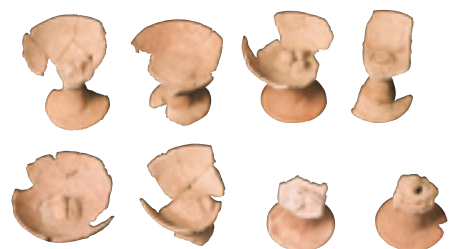
舞台 1 号古墳の墳丘



家形埴輪 高さ 52.8cm
前橋市舞台 1 号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）



石製模造品（右上端の斧長さ 10.1cm）
前橋市舞台 1 号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）



土師器 高坏（右上端 高さ 10.3cm）
前橋市舞台 1 号古墳
【国指定重要文化財】（文化庁蔵）

6. 歴博 埴輪揃え

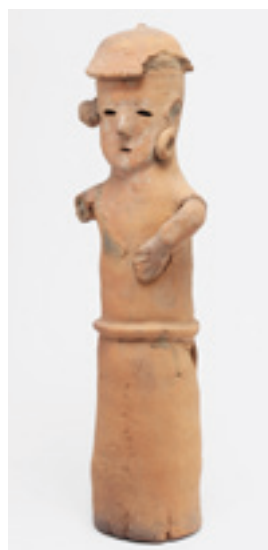
群馬県立歴史博物館では、多数の埴輪を所蔵しています。ここでは「人物」と「動物」に焦点をあて、少しだけ垣間見てみましょう。

人物埴輪には、頭から足までが表現される「双脚 人物埴輪」（左端写真）と頭から腰付近までのみの「半身人物埴輪」（中央写真）があります。両者の装いから、「双脚」のほうが、より高い職掌（役割）の人物を表しているようです。

動物埴輪にはいくつかの種類が確認できますが、例えば狸や狐の埴輪は存在せず、種類は限られます。古墳時代における人と動物との特別な関係のもとに作られ、並べられました。中でも鶏は『古事記』では「常世の長鳴鳥」として登場するように、大変重要視されており、鶏形埴輪は動物埴輪の中で最初に登場し、古墳の特別な位置に置かれました。



挂甲武人 高さ 103cm
北群馬郡榛東村高塚古墳
(群馬大学蔵、当館寄託)



笠を被り鋤を担ぐ農夫
高さ 73cm
伝太田市オクマン山古墳
(当館蔵)



鶏形埴輪 高さ 56cm
伊勢崎市剛志天神山古墳
【国指定重要文化財】(当館蔵)

国宝「埴輪 挂甲の武人」高精度原寸大レプリカ 初公開

東京国立博物館所蔵の国宝「埴輪 挂甲の武人」は、太田市飯塚町から出土したと伝えられています。群馬が誇るこの国宝埴輪を、国立文化財機構文化財活用センターが高精度3Dデータを用いて原寸大樹脂製レプリカとして完成させました。春の特別展示にあわせて、当館で初めて公開します。

なお、本事業は、令和2年度地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業の一環として実施します。



国宝「埴輪 挂甲の武人」
高精度原寸大レプリカ

(参考文献)

青柳泰介 1995「家形埴輪の製作技法について」『家形はにわ』日本の美術No.348 至文堂

群馬県教育委員会 1980『塚廻り古墳群』

群馬県教育委員会 1995『舞台遺跡』

高崎市市史編さん委員会 1999『新編高崎市史 資料編1 原始古代1』

東京国立博物館 1983『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇（関東Ⅱ）』

藤岡市史編さん委員会 1993『藤岡市史 資料編 原始・中世・古代』

■協力者・協力機関（敬称略・五十音順）

石川敬子 河野一隆 河野正訓 佐々木憲一 高野美波 南雲芳昭 原田昌幸 藤森健太郎

松本玲子 山本 亮 横須賀倫達

群馬大学 DNP アートコミュニケーションズ 東京国立博物館 文化庁

発行者：群馬県立歴史博物館

〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町992-1

TEL 027-346-5522

発行日：令和3年2月27日